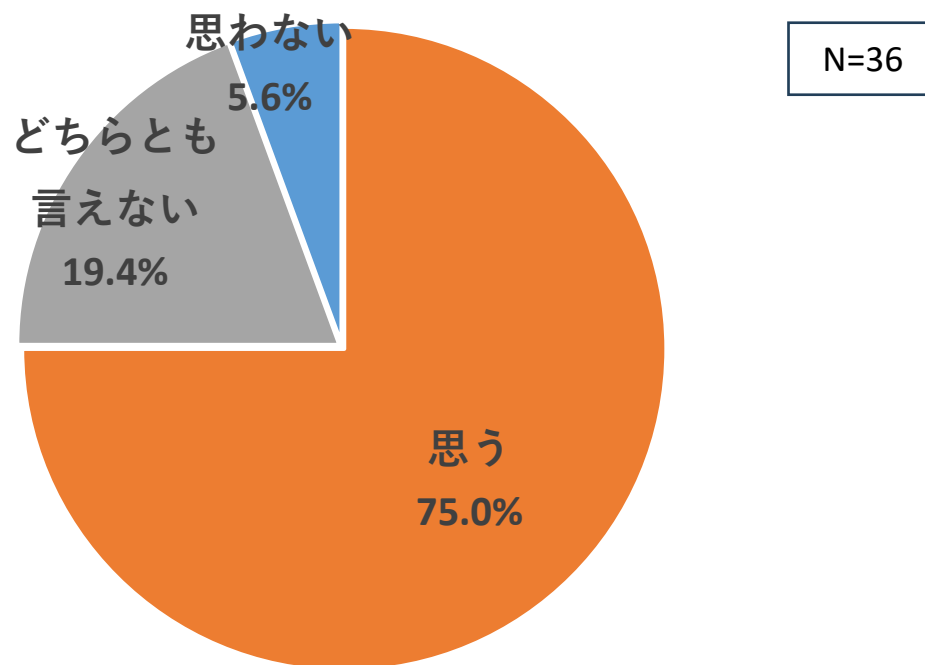


認知症のある人への医療について

(認知症医療の実態調査結果より)

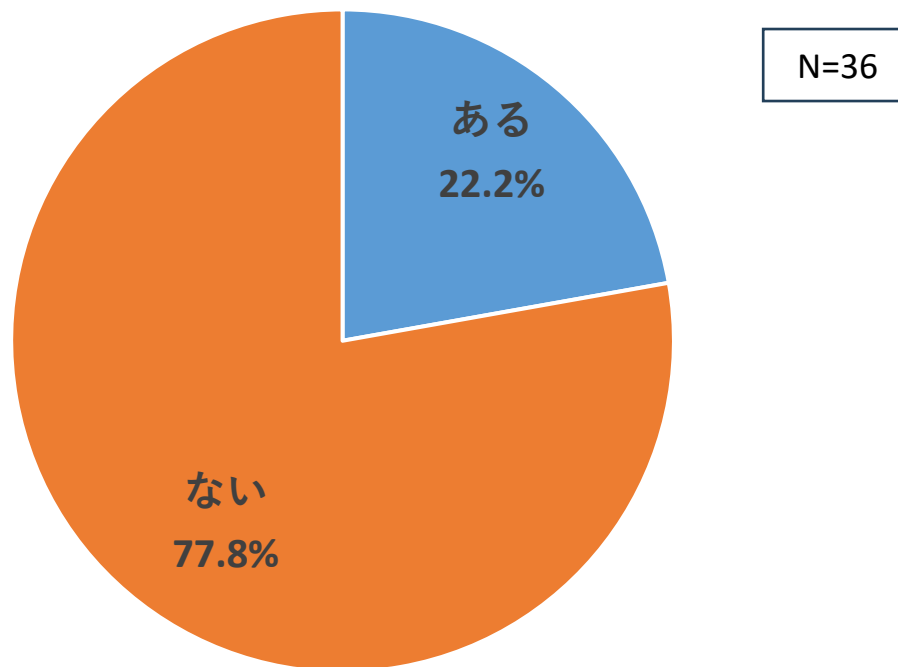
Q：ご自身のかかりつけ医は、認知症について理解があると思いますか。



【理解があると思わない理由】

「認知症に対する知識が十分でない」、「必要な医療機関、関係機関等につないでもらえない」
「相手を尊重する姿勢が乏しい」、「事務的で患者に寄り添ってくれる感じが薄い」

Q：病気やケガ等で入院して治療が必要になったとき、入院先を選ぶに当たって困ったことがありますか。

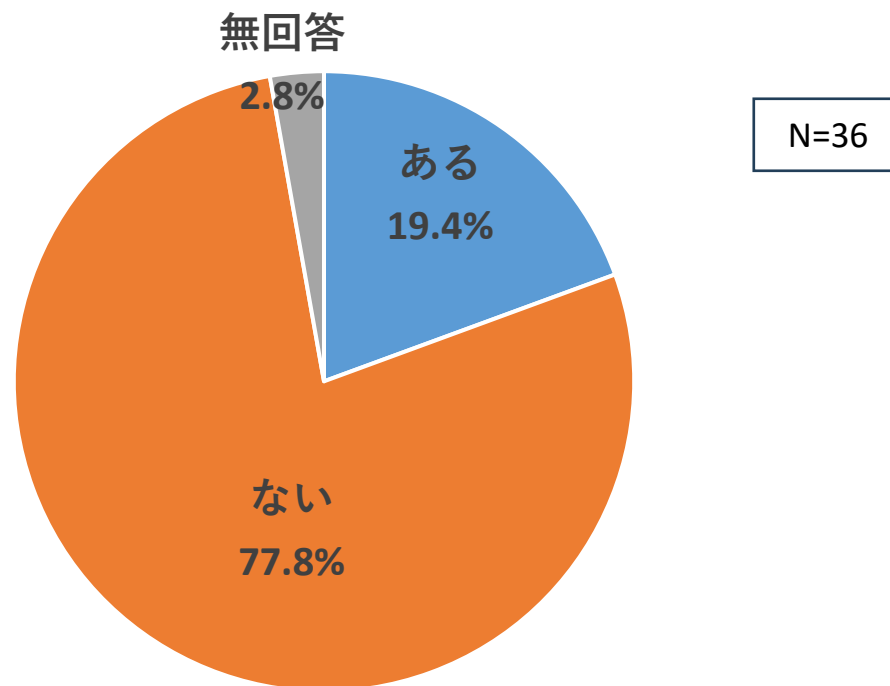


【どのようなことで困ったか】

「家族や介護者が同伴しなければ入院できないと言われた」

「どの医療機関が適切なのか情報が無い」

Q：病気やケガ等で入院したとき、入院中の治療やケアで困ったことはありますか。



【どのようなことで困ったか】

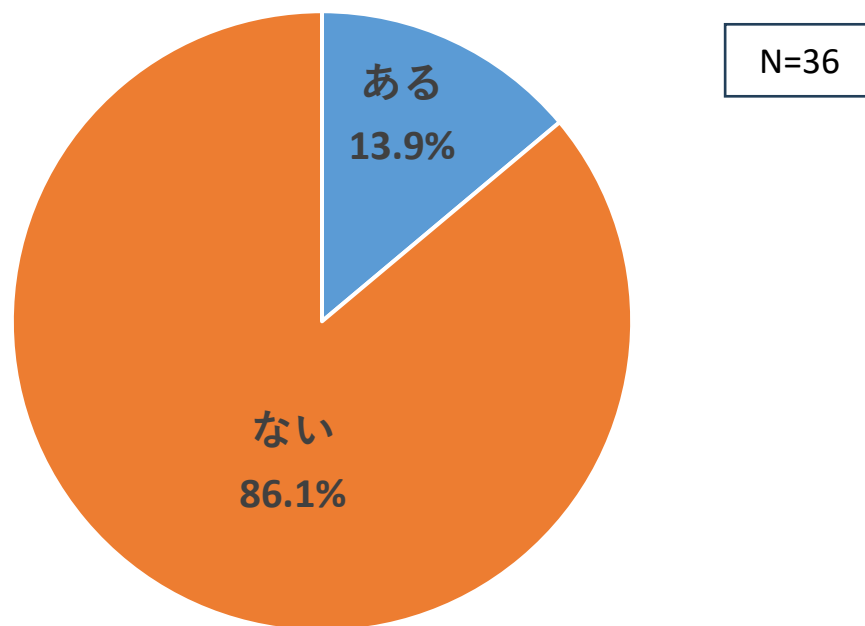
「医師や看護師等のスタッフに、認知症への偏見や先入観があった」

「病状や治療等に関して、本人ではなく家族等に向かって説明された」

「認知症と診断されているというだけで、入院中に行動の制限を受けた」

「扁桃腺の手術で入院したとき、認知症対応ができず、翌日に退院させられた」

Q : 病気やケガ等の治療の終了等により退院するとき、困ったことはありますか。



【どのようなことで困ったか】

「認知症の行動・心理症状等を理由に、退院を余儀なくされた」

「入院前と比べて、認知症の症状が悪くなったと感じた」

「今後の病状や生活等に関して、本人ではなく家族等に向かって説明された」

Q：今後、増加が見込まれる認知症のある方への医療を十分に提供するためには、認知症疾患医療センターや地域の医療機関等にどのような役割・機能が必要だと思いますか。

【主な意見】

「医療介護の連携が必要」

「診断を受けてから介護サービスを受けるまでの間の支援が必要」

「本人と家族の話を十分に聞くことが必要」

「認知症に関する知識や理解が、医療機関全体にまだまだ浸透していない」